

加地伸行著「ビギナーズ・クラシックス、中国の古典、論語」角川ソフィア文庫

角川学芸出版 2004年6月25日刊を読む

われ わか いや ゆえ ひ じ たのう しかんへん  
吾 少きとき賤し。故に鄙事に多能なり。<子罕篇>

1. もちろん、孔子にもあなたと同じく少年時代がありました。その少年時代のころのことを孔子はこう言っています。

われ わか いや ゆえ ひ じ たのう しかんへん  
吾 少きとき賤し。故に鄙事に多能なり。<子罕篇>

「吾」という漢字は、私(わたくし)という自分を指すことばです。「我」も同じく自分を指すことばですが、感じが違います。「我」は、「彼」(三人称)とは「汝」(二人称)とかを意識しています。ですから「我が国」とは、「彼の国」や「汝(あなた)の国」に対する気持ちです。「吾」は、ただ自分のことを指す感じですから、「吾が国」と言えば、「オラが国」「ワシの国」という気持ちです。

2. 「少」字には、大きく二つの意味があります。「少量」というときの「少」は「少ない」という意味ですが、「少年」の「少」は「少い」という意味です。ですから、「少年」と言いますと、本来それは男女ともに指しているのです。しかし後に、少年・少女と男女別にするようにもなりました。「幼少」の「少」も少いという意味です。

「賤」は貧しいという感じですが、だいたい「妾」は小さいということで、「賤」は「小さい貝」というところから、古代では、貝は貨幣の代わりでもありましたから、「賤」は貨幣価値の小さい(低い)ことを意味します。この「貝」に替えて「金」と書きますと、「賤」は「錢」となります。「錢」(銭)はぜ二、小錢です。

「吾 少きとき賤し」という文語に、すこしことばを補えば、こうなります。「吾〔は〕少きとき賤し〔かった〕」と。

3. それでは、A・B・Cと分けてそれぞれの文を並べてみましょう。

A 吾 少きとき賤し。故に鄙事に多能なり。

B 私は、少年のころ貧しかった。だから、いろいろな雑役をこなすことができるのだ。

C 吾少也賤。故多能鄙事。

4. Cが原文(原漢文)です。このままでは、専門家にしか読めません。そこで日本語として読んだものがAです。Aを書き下し文とか、読み下し文とか、訓読文とかと言います。Bは現代日本語訳です。

5. CをAのように読むには、文法をはじめ、いろいろな知識が必要です。しかし、それはこの本では触れないことにします。これから引用する原漢文に「一」とか「レ」とか記号がついていますが、

それも含めていつか機会がありましたら原漢文の読みかたの知識についてお話ししましょう。

6. さて、こうして並べてみますと、Aは簡潔な上に、リズム感があります。さらには、読みきったあと、一種の響き——余韻があります。となりますと、心に残り、覚えやすいのです。

P13 ~ 15

7. 「故に」は、「だから」と訳します。強い感じですが、同じく理由を表わす日本語の「...なので」は、消極的な感じですが、ことばづかいで、「...なので」と言うと、消極的で優しい感じですが、「だから...」と言うと、積極的にかぶさってくるような強い感じになります。

8. 「鄙事」は、素朴な仕事、たとえば、鶏に餌をやることとか、簡単な石垣を積むこととか、といったような仕事のことです。

9. 「多能」は、「多くのことが可能(できる)」という意味です。

10. すると、この例文を現代日本語に訳しますと、だいたいこういう意味になります。

私は、少年時代、貧しかった。だから、〔生活のためにはどんなことでもしたのだ。その経験があったので〕いろいろな雑役をこなすことができるのだ。

11. このように、元の漢文を、日本語の古文調に読んで、その上で現代日本語に訳すことになります。これが、古典としての漢文を読むふつうの順番です。

12. 以下、そういう形で述べてゆきたいと思います。ただし、原漢文のところは、読むのを省略してください。また、訳文のすこし難しいところは、注をつけますので、その注を参考にしながら、訳文を読んでください。

P18 ~ 19

[コメント]

「論語」の最新のテキスト。どんどんわかりやすいテキストが出版され、論語が一段と身近になってきた。大いに学ぼうではないか。

- 2009年12月14日 林明夫記 -